

脳神経外科



副院長
塚原 徹也

専門医資格等
日本脳神経外科学会
専門医/指導医
日本脳卒中学会専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳血管障害
脳卒中の外科的治療



診療科長
福田 俊一

専門医資格等
日本脳神経外科学会
専門医/指導医
日本脳卒中学会専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳動脈瘤
良性脳腫瘍
頭蓋底手術
バイパス術

□スタッフ

平成28年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	青木 友和	日本脳神経外科学会 専門医/指導医 日本脳卒中学会 専門医 日本癌治療学会 暫定教育医	脳神経外科	脳腫瘍(悪性)、下垂体腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医 師	川端 康弘	日本脳神経外科学会 専門医/指導医 日本脳卒中学会 専門医 脳神経血管内治療学会 専門医	脳神経外科	脳血管障害、脳血管内治療、脳腫瘍
医 師	河原崎 知	日本脳神経外科学会 専門医/指導医	脳神経外科	

□診療科の特徴

施設認定等 | 日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に24時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3.のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に十分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□主な対象疾患

- ・脳血管障害(脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害)
- ・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・頭蓋咽頭腫)
- ・神経内視鏡手術
- ・頭部外傷
- ・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛)

□診療(業務)内容

- ・脳血管障害(脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術および脳動脈奇形・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術)
- ・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動脈奇形塞栓、急性期血管血行再建など)
- ・脳腫瘍(グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫)に対する摘出術
- ・神経内視鏡手術(下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
- ・頭部外傷(血腫除去術)
- ・脊椎背髄疾患
- ・機能的脳神経外科(顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
- ・頭蓋底および頸部腫瘍:腫瘍摘出および血行再建術

□診療実績(平成28年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16.5名	339名	16.8日

外来患者数

1日平均患者数
32.3名

□地域医療連携・広報活動

第14回脳卒中市民講座 2016年12月17日 於:京都医療センター、多目的ホール

「脳卒中診療のいまと今後の課題」 日本脳卒中協会京都府支部長 京都医療センター 副院長 塚原徹也

「脳卒中と認知症」 京都医療センター神経内科医長 大谷良

「こんなところに気をつけて!冬の脳卒中予防」 京都医療センター 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 樋口泰子

「脳卒中予防の食事～手軽にできる食事療法のポイント～」 京都医療センター管理栄養士 岡田怜奈

「音楽で活性化する脳と心」 京都医療センター 音楽療法士 飯塚三枝子

「脳卒中・急性期の治療」 京都医療センター脳神経外科医長 川端康弘

「めまいと脳卒中」 京都桂病院 脳血管センター長 山本康正

□学術活動報告(学会・研究発表など)

区分	演者・演題・学会名
研究会	青木友和 免疫チェックポイント阻害薬のグリオーマ治療 第71回脳神経外科学会近畿地方会 2016.4.2 大阪
研究会	川端康弘、中澤拓也、福田俊一、青木友和、森田匠、河原崎知、手島啓幾、塚原徹也 椎骨動脈の解離性脳動脈瘤に対してLVIS Jrステントを用いた塞栓術が有効であった1例 第71回脳神経外科学会近畿地方会 2016.4.2 大阪
国際学会	Fukuda S, Shimogonya Y A role of hemodynamic stress in carotid stenosis; a study using computational fluid dynamic analyses Experimental Biology 2016 2016.4.6 San Diego, CA, USA
国内学会	川端康弘 中大脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の治療成績 第41回日本脳卒中学会総会 (STROKE2016) 2016.4.14 札幌
国内学会	福田俊一、安田 謙、米本直裕、塚原徹也、中村道三 青木友和、大谷 良、村瀬永子、川端康弘、赤尾昌治 伏見心房細動患者登録研究(Fushimi AF Registry)における心原性脳塞栓症発症例のリスク解析 第41回日本脳卒中学会総会 (STROKE2016) 2016.4.15 札幌
国内学会	川端康弘 脳動脈瘤コイル塞栓術後に再治療を要する危険因子の検討 第41回日本脳卒中学会総会 (STROKE2016) 2016.4.16 札幌
国内学会	川端康弘 当院における脳梗塞急性期血行再建の治療成績 第41回日本脳卒中学会総会 (STROKE2016) 2016.4.16 札幌
国際学会	Tomokazu Aoki Phase I/II Study of a Combination of Temozolomide with ACNU for Patients with Recurrent Malignant Gliomas 21th International Conference on Brain Tumor April 13, 2016 Okinawa
研究会発表	川端康弘 A-com動脈瘤の一例 Codman Coil Visitation 2016.4.26 宮城
教育講演	福田俊一 脳血管障害における 血行力学的因子の役割について 九州大学医学部 脳神経外科 R&Dセミナー 2016.5.11 福岡

国内学会	下権谷祐児、福田俊一 計算流体力学による破裂脳動脈瘤に関する検討: DISTURBED FLOWの観点から 第39回日本バイオレオロジー学会年会 2016.6.18 東京
国際学会	Tetsuya Tsukahara, Satoshi Kawarazaki, Nagako Murase Monitoring by MEP and ICG in aneurysm surgery 8th European-Japanese Cerebrovascular Congress June.22.2016 Zurich
研究会発表	川端康弘 コイル塞栓術後に動脈瘤周囲浮腫を来したラージサイズの脳底動脈-上下脳の分枝部動脈瘤の一例 STROKE研究会 2016.7.8 京都
国際学会	Yasuda K, Fukuda S, Nakamura M, Kuwata Y, Takata M, Sainouchi M, Teshima Y, Kawarazaki S, Kawabata Y, Murase N, Ohtani R, Aoki T, Akao M, Tsukahara T Predictors of Cardioembolic Stroke in Japanese patients with atrial fibrillation: The Fushimi AF Registry Asia Pacific Stroke Conference 2016.7.15 Brisbane, Australia
研究会発表	川端康弘 塞栓後に脳幹部浮腫を来したBA-SCA動脈瘤の一例 近畿脳神経血管内治療手術法ワークショップ 2016.7.16 和歌山
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、川端康弘、河原崎知 最近経験した後頭蓋蓋神経鞘腫4症例の報告 第72回脳神経外科学会近畿地方会 2016.9.3 大阪
国内学会	青木友和 膠芽腫の新しい治療の試み 第72回脳神経外科学会近畿地方会 2016.9.3 大阪
国内学会	青木友和 再発悪性神経膠腫に対するTemozolomideとACNUの併用化学療法(TA療法)の第I/II相試験 日本脳神経外科学会第75回学術総会 2016.9.29 福岡
国内学会	川端康弘 脳動脈瘤コイル塞栓術中・術後における血栓塞栓性合併症の検討 日本脳神経外科学会第75回学術総会 2016.9.30 福岡
国内学会	福田俊一、下権谷祐児 計算流体力学(CFD)解析による中大脳動脈と前交通動脈瘤破裂率の相違に関する検討: CFD ABO Study中間報告 日本脳神経外科学会第75回学術総会 2016.10.1 福岡
研究会発表	川端康弘 後下小脳動脈遠位の脳動脈瘤破裂急性期にステント支援下コイル塞栓術を施行した1例 京滋脳卒中臨床カンファランス 2016.10.17 京都
国内学会	川端康弘 破裂嚢状脳動脈瘤の治療成績 第32回日本脳神経血管内治療学会学術総会 2016.11.26 神戸
国際学会	Tomokazu AOKI, Yoshiki ARAKAWA, Tetsuya UEBA, Masashi ODA, Namiko NISHIDA, Yukinori AKIYAMA, Tetsuya TSUKAHARA, Koichi IWASAKI, Nobuhiro MIKUNI, and Susumu MIYAMOTO Phase I/II Study of Temozolomide Plus Nimustine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas: Kyoto Neuro-oncology Group 21th Annual Meeting and Education Day Nov.18,2016 Scottsdale, Arizona
国内学会	青木友和、荒川芳輝、上羽哲也、織田 雅、西田南海子、秋山幸功、塚原徹也、岩崎孝一、三國信啓、宮本 享 再発悪性神経膠腫のTemozolomide+ACNU科学療法 第I/II相試験 京都脳腫瘍グループ 第34回日本脳腫瘍学会学術集会 2016.12.5 山梨
教育講演	塚原徹也 脳卒中診療のいまと今後の課題 第14回脳卒中市民講座 2016.12.17 京都
教育講演	川端康弘 脳卒中・急性期の治療 第14回脳卒中市民講座 2016.12.17 京都
国際学会	Shunichi Fukuda, Miyuki Fukuda, Joji Ando, Kimiko Yamamoto, Tetsuya Tsukahara, Yuki Ito, Koji Hasegawa Inhibition of the Endothelial Shear Stress Sensor, P2X4 Purinoceptor Drastically Reduces Cerebral Aneurysm Formation International Stroke Conference 2017 Feb. 22, 2017 Houston, TX
国際学会	Shunichi Fukuda, Yuji Shimogonya Wall Shear Stress Strength Over the Cerebral Aneurysm is Drastically Affected by Aneurysm Location While the Magnitude of Disturbed Flow is Closely Related to Aneurysm Size and Surface Area International Stroke Conference 2017 Feb. 22, 2017 Houston, TX
研究会発表	川端康弘 後下小脳動脈遠位部の破裂脳動脈瘤に対してステント支援下塞栓術を行った1例 第7回熱海脳血管内治療セミナー 2017.2.26 静岡
教育講演	福田俊一、下権谷祐児 脳動脈瘤の形成・増大・破裂における血行力学的因子の役割: 実験的・臨床的背景からCFD解析まで ANSYS医療セミナー 2107.3.9 東京
国内学会	川端康弘、福田俊一、青木友和、塚原徹也、河原崎知 脳動脈瘤コイル塞栓術の周術期におけるオザグレレルナトリウムの有用性 第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017) 2017.3.16 大阪
国内学会	福田俊一、下権谷祐児 計算流体力学(CFD)解析による未破裂脳動脈瘤の最大径および表面積による血行力学的因子の分布の相違の検討 第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017) 2017.3.17 大阪
国内学会	峰晴陽平、尾原知行、永金義成、富井康宏、大谷 良、今井啓輔、福田俊一、西村真樹、高木康志、赤尾昌治 経口抗凝固薬処方中に発注した脳卒中の前向き登録研究: KOACS Registryの中間解析結果 第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017) 2017.3.18 大阪
国内学会	大谷 良、中村道三、村瀬永子、齊ノ内信、後藤昌広、栗田康弘、高田真基、増田裕一、塚原徹也、坂根直樹 脳梗塞急性期治療rt-PA療法後における出血性脳梗塞の予測因子に関する検討 第42回日本脳卒中学会学術集会(STROKE2017) 2017.3.18 大阪
国際学会	Tomokazu Aoki Expression of murine interleukin 7 in a murine glioma cell line results in reduced tumorigenicity in vivo 4th Immunotherapy of Cancer Conference 21 March, 2017 Prague, Czech Republic

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	発行年 および月
Aoki T, Yamamoto K, Fukuda M, Shimogonya Y, Fukuda S, Narumiya S	Sustained expression of MCP-1 by low wall shear stress loading concomitant with turbulent flow on endothelial cells of intracranial aneurysm	Acta Neuropathologica Communications	4	48	1-14	2016.5
Shimogonya Y, Fukuda S	Computational and experimental studies into the hemodynamics of cerebral aneurysms	Journal of Biomechanical Science and Engineering	11	1	1-14	2016.6

Masashi Tanaka, Shinya Masuda, Yoshiyui Matsuo, Yousuke Sasaki, Hajime Yamakege, Kazuya Muranaka, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Tetsuya Tsukahara, Akira Shimatsu and Noriko Satoh-Asahara;	Hyperglycemia and Inflammatory Property of Circulating Monocytes are Associated with Inflammatory Property of Carotid Plaques in Patients Undergoing Carotid Endarterectomy	J Atheroscler Thromb.	23	10	1212-1221	2016 Oct 1
福田俊一	第2章 全身を評価する Lesson 5 脳卒中既往	これが伏見流! 心房細動の診かた、全力でわかりやすく教えます。			72-80	2017.3
Aoki T, Arakawa Y, Ueba T, Oda M, Nishida N, Akiyama Y, Tsukahara T, Iwasaki K, Mikuni N, Miyamoto	Phase I/II Study of Temozolomide Plus Nimustine Chemotherapy for Recurrent Malignant Gliomas: Kyoto Neuro-oncology Group.	Neurol Med Chir (Tokyo)	57	1	17-27	2017.1
Tetsuya Tsukahara, Alberto Pasqualin, Giuseppe Esposito, Luca Regli, Giampietro Pinna, Editors	Trends in Cerebrovascular Surgery Acta Neurochirurgica (Switzerland)	Acta Neurochirurgica (Switzerland) Suppl	123			2016
Tetsuya Tsukahara	Surgical Treatment of Carotid Artery Stenosis	Acta Neurochirurgica (Switzerland) Suppl	123		109-114	2016